

星川



星川は、元和9年(1623)の荒川の氾濫によりできた「玉の池」(現・星溪園)から湧き出る清流を源としています。

市街地の中央を流れる星川は、文化の香り漂う市民のオアシスとして景観整備が進められ、広場や彫刻が設置されたことから「水と緑と彫刻のプロムナード」として広く親しまれてきました。現在は「星川シンボルロード」として再整備され、名実ともに熊谷の「顔」になっています。

様々なイベントとしても活用され、「熊谷というまちを住民が楽しもう！」という思いから星川通りではナイトバザールが開催され、「星川夜市」の名称で市民に親しまれています。

